

衣笠祥雄旗争奪 第6回京都中学硬式野球大会 大会約款

- 1 選手のベンチ入り登録は、試合毎に10名から20名以内とする。
- 2 指導者のベンチ入りは、監督、コーチ、スコアラーの3名のみとする。ただし、監督、コーチは、選手と同様のユニフォームを着用する。なお、スコアラーのユニフォーム着用は認めない。
- 3 指導者（監督、コーチ、スコアラー）が何らかの事情により試合出場が不可能な場合は、試合当日に大会本部へ専用の「遅刻・欠席・変更」届を審査時に提出すれば、変更することができる。
- 4 登録外の指導者、選手（試合中におけるボールボーイを除く）のグラウンド内への立入りは禁止とする。また、試合前のノック時の球出し等についても登録選手が行うものとする。
- 5 すべての試合において、シートノックは行わず、サイドノックとする。ノックを補助する登録選手は、必ず、両耳ヘルメットを着用することとする。
- 6 試合中におけるボールボーイは、各チームより3名（ベンチ横2名、外野1名）配置する。原則、選手（ベンチ入りメンバー）が行い、練習用のユニフォーム等で背番号は着けないものとする。選手が不足している場合は保護者によるボールボーイを認める。ボールボーイを行う者は、ヘルメットを着用しなければならない。
- 7 指導者や選手がサングラスを使用する場合は、審判員に申し出、許可されたサングラスの着用を認める。（プラスチック製とする。）
- 8 次試合のブルペン使用は原則禁止とする。ただし、屋内及びグラウンド外にあるブルペンについては、当該試合で使用している場合を除き、次試合のチームの使用を認める。
- 9 審査（選手、指導者確認）は、書類審査とし、大会本部が当日持参する登録書、メンバー表、「遅刻・欠席・変更」届、投球数確認シート（原本1部・コピー2部 初戦を除く）でもって確認する。なお、球場到着報告の際、速やかに、大会本部へ必要書類を提出すること。（メンバー表は各リーグの物を使用 5枚綴り）
- 10 道具審査は、審判員が行う。審査内容は、道具のSGマークのほか、ヘルメットの損傷及び使用年数、バットの変形、グリップテープのゆるみ、キャッチャー道具、道具のメーカー等は問わないものとする。道具審査を行う場所は、大会本部の指示を受けること。（注）AEDは審査の対象にはならない。所持していないチームは各球場における配置場所を確認しておくこと
- 11 投手の投数に関して大会前日、出場チームが他試合等を行った場合でも本部は把握出来ないため関知しないものとし。報告等はチームに任せる。ただし、本大会による投球数制限は適応する。（別記参照）
- 12 勝ちチームの責任者（チーム代表・指導者）は試合終了後、投数の確認のため本部に来る事。（サインが必要）
- 13 雨天等により、大会日程の関係上、急遽、試合日程の変更となりもあり、ダブルヘッターとなることもある。ダブルヘッターを採用した場合、原則、第2試合終了後40分後を試合開始予定時刻とし、攻守トスは開始予定時刻の10分前とする。
- 14 試合参加費 1チーム¥30,000とする。
- 15 ロストボールについては、道具審査時に審判が確認する。
- 16 審判員は、球審、二塁審は、原則、各連盟登録審判員で行う。一塁審・三塁審は、当該チームから1名ずつ排出する。各連盟登録審判はグラウンド担当制を認める。
- 17 準備投球について、初回7球、攻守交代時3球、投手交代時5球とし、突然の場合は、審判の判断とする。
- 18 試合中のブルペン使用は2組まで、必ず補助選手（ヘルメット着用）をつける。代打選手用の第2ネクストバッターボックス（ブルペン側）を設ける。ただし、使用については、自チームの攻撃中のみとする。

★大会約款についての連絡事項

- ・タイムの制限は、7回で守備・攻撃のタイムをそれぞれ3回までとし、延長回（タイブレークを含む）に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回だけ認める。内野手（捕手を含む）が2人以上マウンドに行った場合は、1回としてカウントする。
- ・タイム時、監督はマウンドまで行くことができる。同一イニングでの2回目は、自動的に投手交代となる。
- ・「同一イニングでは、投手が一度ある位置に守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることができない」は適用しない。
- ・2時間優先の7回戦で、2時間（決勝戦は2時間20分）。裏のイニングを終えて規定時間に達した場合は新しいイニングに入らない。7回終了時同点の場合は、時間内であれば10回まで延長戦に入る。2時間経過および10回終了後、同点の場合は新しいイニングに入らず、タイブレーク方式（1死満塁）を行う。
- ・4回10点差以上、5回以降7点差以上の場合は、コールドゲームとする。
- ・特別代走については投手以外とする。
- ・申告敬遠を採用する。
- ・試合が降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となり、試合が成立しない場合は特別継続試合とし、大会本部が指定した日時、場所で中断した状況で再開する。（原則、試合成立は4回終了であるが、後攻チームが勝っている場合は、4回表を終了時点とする。）

◇上記の内容は大会約款の一部を記載した内容であり、詳細な内容は大会約款を必ず読み理解しておくこと。

<第6回全京滋中学硬式野球大会の連絡事項>

- ・試合時のアナウンス：両チームから2名（試合開始時間をアナウンス「試合開始時間は〇〇時〇〇分です」）
- ・スコアブック（記録）は当該チームが担当する。
- ・雨天時の連絡は各リーグの責任者に連絡が入る。そこから各チームの責任者に連絡する。

<投球制限ガイドライン>

- (1) 1日最大80球以内とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- (2) 3連投（連続する3日間で3試合）する場合は、1日の投球数を40球以内とする。4連投（連続する4日間で4試合）は禁止する。
- (3) 1日80球投球後、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- (4) (1)～(3)を基本原則とするが、打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にはカウントしない。
- (5) 連続する2日間で80球を超える投球をした投手並びに3連投した投手は、登板最終日ならびに翌日は捕手としても出場できない。
- (6) ボークは投球数としない。
- (7) 雨などで特別継続になった試合は投球数にカウントする。
- (8) 前のイニングに制限数に達し、投球できない投手がファウルラインを越えて準備投球に向かった場合でも、その時点で投手の交代を認める。（公認野球規則5.10(i)よりも投球数制限を優先する）
- (9) 万が一、制限数を超過して投じられた投球も有効とする。
- (10) 1年生が投球する場合も上記に準ずるが、指導者は十分考慮すること。
- (11) ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合、連続2日間投球したこととする。また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- (12) 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
例：2ボール1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じた3球は投球数にカウントする。
- (13) 異なる大会であっても、連日投球する投手は、このガイドラインに則った投球制限で投球する。